

第 80 年度中央コミュニケーションスクール 会社間の垣根を越えて交流を深める

6 月 12 日、13 日の 2 日間、ホテルマリナーズコート東京で第 80 年度中央コミュニケーションスクールを開催した。

この中央コミュニケーションスクールは、所属会社が異なる全国の組合員同士の交流や組合の歴史を学び団結を深めることなどを目的として開催しており、今回は募集を行った結果、全国から 30 人の組合員が参加した。

他社の組合員と語り合う

初日は午前 9 時 30 分から開講式が開催された。禾野洸太執行部員の司会で始まり、齋藤洋中央執行委員から主催者代表あいさつが述べられた後、参加組合員が一人ずつ自己紹介を行った。

最初の講義は、初対面の参加者の緊張をほぐす恒例の「アイスブレイク」で、組合員同士のあいさつから始まり、グループに分かれ意思疎通を図るためのジャンケン大会などゲームやレクリエーションを通じ、緊張もほぐれ和やかな雰囲気に包まれた。

続いて木村俊暁総務部副部長が講師として「組合員について」をテーマに、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター（JSS）の各種研修事業補助などが受けられるなどの説明と、執行部員の業務紹介も行い、質疑応答で理解を深めた。

午後の最初の講義は、チームビルディング・ワークショップで、参加者が 6 つのグループに分かれ、LEGO ブロックを使い、テーマに合わせた作品を創作し、参加者同士が作品について説明を行い、考え方の多用性をお互いに理解するために人に伝える、人から聞き出すことなど、コミュニケーションを深める方法を体験した。

初日最後の講義は、近年の労働情勢および労働組合法についてと題し、▽労働組合とは▽知っておきたい法知識▽近年の労働情勢や、休憩時間と有給休暇、割増手当など船員法の特徴に加え、労働三権や不当労働行為などについて学んだ。参加者からは、パワハラだと判断するにあたっての重要なポイントはどこかなどの質問が出され、意見交換で理解を深め、初日の講義は終了した。

夕刻からは経験交流会として、ホテルマリナーズコート東京からバスで 5 分ほどの施設へ移動し、BBQ を楽しみながら、参加者同士が船内生活や仕事などについて経験談を語り交流を深めた。

「海員だより」